

ETFは世界中で約5,500本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は2.9兆ドル（約340兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見てくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2015年9月のETF資金流入

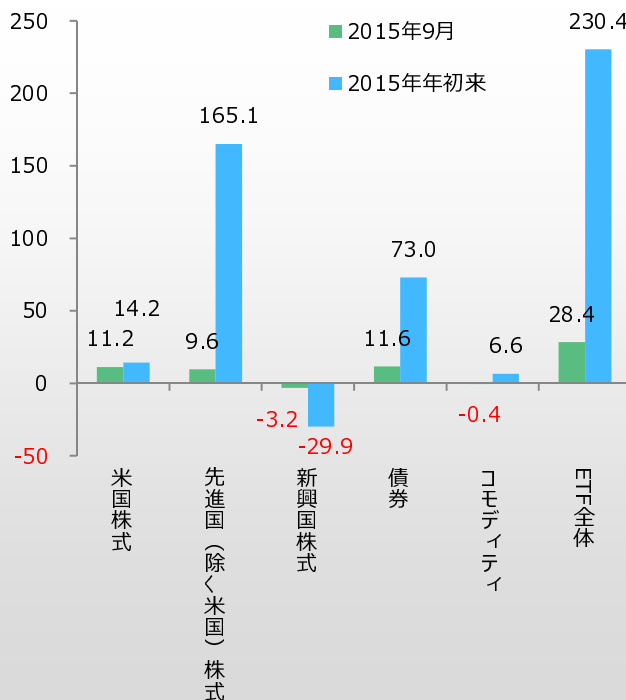
2015年9月の世界のETFの資金流入は、284億ドル（約3.4兆円）の流入となりました。

FOMC（米連邦準備制度理事会）の政策金利の引き上げに注目が集まる中、株式ETF、債券ETFともに流入となりました。

米国株式は112億ドルの資金流入が見られました。資金流入はFOMCの政策発表前の時期に集中しました。欧州株式（28億ドル）と日本株式（62億ドル）には引き続き資金流入が見られています。その一方で新興国株式は流出が継続しています。中国の弱い経済指標の発表等を背景に、新興株式市場広範に投資を行なうETFを中心に32億円の流出となりました。

債券ETFは116億ドルの資金を集めました。前半は、8月後半の株式市場の急落と米国政策金利の利上げを控えた環境を受けて、年限の短い米国債ETFを中心に、月間では50億ドルの流入となりました。後半にかけて、投資家のリスク回避姿勢が和らぐにつれ、投資適格社債ETFへ資金が戻り、月間では14億ドルの資金流入となりました。

【世界のETFの資金流入（10億ドル）】



出所：BLACKROCK GLOBAL ETP LANDSCAPE October 2015

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

ETFから見る世界の投資家動向

図1：世界のスマートベータ型ETFの資金フローと資産残高

(単位：10億ドル)

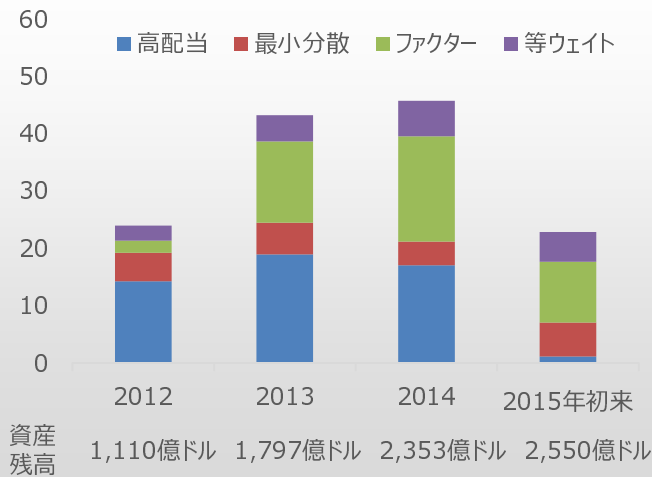
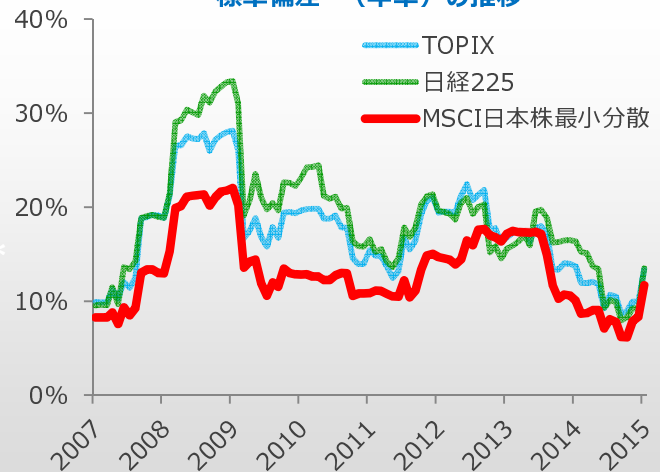


図2：MSCI日本株最小分散指数と各指数の標準偏差*（年率）の推移



出所：ブラックロック、ブルームバーグ
*標準偏差は価格変動リスク（ボラティリティ）のパラッキ幅を計測するための指標。一般的に数値が大きいほど、ボラティリティが高く、小さいほど低いと読むことができる。

ここ数年、海外ではスマートベータ型と言われるETFに強い資金流入が続いています。同ETFの残高は2012年以降、上の図1のように伸びており、ETF市場全体の倍のペースで資金を集めました。スマートベータとは、パッシブ運用とアクティブ運用の中間的な運用手法です。具体的には時価総額に応じて銘柄を組入れる従来型の株価指数ではなく、一定のファクターを捉えることを目的として、透明性の高いルールに基づいて運用される投資スタイル、とブラックロックでは定義しています。種類としては、最小分散、高配当、ファクターといったものが挙げられます。一方、国内では10/20に「証券コード：1477 iシェアーズMSCI日本株最小分散ETF」が東証に上場しました。当ファンドはMSCI日本株最小分散指数に連動し、最小分散指数を対象とするETFとしては国内初です（当社調べ）。最小分散指数の特徴は、個別銘柄の組合せと組入れ比率を調整することで、指数全体の変動（ボラティリティ）を最小に抑えるよう設計されている点にあります（図2参照）。また、過去10年のトータル・リターンで見ると同指数がTOPIXを上回る結果となっており、価格変動を抑制した投資手法は結果的にリターン向上にもつながりました。最小分散は長期運用を行う年金等の機関投資家により広まった高度な運用手法ですが、1477の上場により、東証で日本株と同じように、かつ、低コスト（信託報酬は0.19%）で個人投資家も同様な投資を実践できるようになりました。日本株投資の新たな選択肢として、スマートベータ型ETFに注目されてみてはいかがでしょうか。

「MSCI」および「MSCI Index」はMSCI Inc.のサービスマークであり、ブラックロックはその使用許諾を得ています。iシェアーズETFはMSCI Inc.が出資、保証、発行、販売、または販売促進を行なうものではありません。また、同社は、iシェアーズETFへの投資の妥当性に関していかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の会社の関連会社ではありません。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。優先株は金利上昇等により価値が減少する場合があります。また配当の支払いは保証されていません。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（REIT）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】 当ETFを売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】 当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認下さい。またiシェアーズのウェブサイト（<http://www.blackrock.com/jp/ishares>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

iShares®
by BLACKROCK®

ブラックロック・ジャパン株式会社

iシェアーズ事業部 TEL 03-6703-4110（部代表） www.blackrock.com/jp/ishares
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号
加入協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。